（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立戸山小学校

■　学校の共通目標

授業づくり	重点	・学習規律を整えるとともに、問題解決型学習過程を全教科で適宜取り組み、主体的な問題解決力を養う。	中間評価	・学習規律や主体的な問題解決力を養っていくことはおおむねできている。今後も継続して指導していく。	最終評価	・年間を通して、学習規律や主体的な問題解決力を養っていくことはおおむねできた。今後も継続して指導していく。
環境づくり		・各教科で適宜 ICT 機器を活用する。また児童同士の学び合いのツールとしてＩＣＴ機器を活用するなど授業展開を工夫して、どの児童にも「分かる」「できる」学習環境を作る。		・ICT 機器を活用して授業の展開を工夫することはおおむねできている。学び合いのツールとしての活用方法をさらに深めながら引き続き指導していく。		・年間を通して、ICT 機器を活用して授業の展開を工夫することはおおむねできた。今後も、学び合いのツールとしての活用方法をさらに深めながら引き続き指導していく。

■　学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）
1	国語	学どの児童も文字を習うことを好み、すすんで学習している。しかしながら、ひらがな、カタカナ、漢字の書き順や形を正しく覚えられていない児童もいる。	・筆順が異なるため、バランスの悪い文字や、早く書こうとするあまり文字の書き取りが雑になってしまうことがある。	・授業だけでなく、家庭学習でも書き順を学ぶプリント課題を出す。また、国語科以外の教科においても、常に読み手に対する相手意識をもたせ、読みやすい字を書くことを指導する。	・週５日分、毎日必ず漢字の読み方、筆順、その漢字を使った言葉を書き取る練習プリントに繰り返し取り組ませることで、字形を意識して文字を書くことができるようになってきた。また、書初めをしたり、他学年の音楽朝会の感想を手紙に書いたりする活動を行うことを通し、相手意識をもって丁寧に書けるようになってきた。加えて、自分の書いた文は、書き終えたら必ず見直し、読みづらい文字は書き直すよう指導し、習慣化することができた。
		学本を読むことを好み、すすんで読書に取り組む。一方で、飛ばし読みをしてしまったり、勝手読みをしてしまったりすることがある。	・語と語のまとまりを意識して音読することや、言葉の意味を理解して読むことに課題がある。	・国語科の授業や家庭学習において毎日音読を行い、正しく読めるようにする。国語科の学習において、語彙の確認をしっかりと行い、読む・書く・話す・聞く学習を行う。	・家庭学習の課題として毎日必ず音読練習を出すことで、声に出してしっかり読めるようになった。また、国語科のみならず、算数の文章題を声に出して読んでから問題を解かせたり、「言葉集め」の学習を積極的に行ったり、読書を推進したりすることで、言葉そのものに児童が興味をもち、わからない言葉はすすんで尋ねて確かめるようになった。
		学自分で考えたことをすらすらと文に表わせる児童がいる一方で、文を書くことが困難な状況の児童もいる。	・文を書くことに課題のある児童は、書く内容が定まらなかったり、文字の書き取り自体に時間が掛かったりする。	・書き進みが遅い児童には、時間を区切った視写を繰り返し行う。書く内容が定まらない児童には、まず書きたい内容を伝えさせ、イメージを膨らませた後、書く活動に移すなど、学習過程の工夫し、素地を養う。	・何を書く際にも、目安の終了時刻を伝え、活動時間を意識して書くよう促し、時間内に書き上げる意識をもたせることができた。長い文を書かせる際には、取材・構成のメモを書かせることによって、多くの児童が書きたい内容を整理して書けるようになった。また、国語科以外の学習においても、学習感想や振り返りを文で記述する活動を繰り返し行い、どのようなときも自分の思いや考えを書き表すことに慣れさせることができ、積極的に表現する児童が増えた。
	算数	学式をよく見ないで慌てて計算し、間違えてしまう児童がいる。	・早く計算をすることに価値を見出している児童が多く、問題の見直しをしないで、終わらせてしまう。	・問題を解いた後は、必ず見直しをするよう習慣化する。また、問題文はテストを除き、声に出して読んで内容を確かめるようにするなど、しっかり読み取れるようにする。	・文章題を解く際には、必ず声に出して問題を読み、その後ポイントとなる箇所にアンダーラインや印をさせることで、大切なことを落とさずに読み取る意識をもたせることができた。テストの問題を解く際にも、必ず、読み取ったポイントに印をするように指導し、正確に問題を解くことができるようになってきた。
		学計算を得意としてどんどんできる児童もいれば、数の概念についての理解が難しく、十までの計算を暗算ではできないため、指を使って計算し時間を要する児童がいる。	・暗算でできないところは、〇を書いたり、指で数えたりしながら計算をしている児童がいる。	・指や〇を使って計算することも認めつつ、フラッシュカードや計算カードで繰り返しの学習を増やし、計算に対する苦手意識をなくす。家庭学習や朝学習で繰り返し計算の練習に取り組ませることで、暗算の定着を図る。	・計算カード遊びや暗証を徹底して行い、また家庭学習や朝学習で計算練習に繰り返し取り組ませることで、計算に慣れ問題を解くスピードが全体的に上がった。また、教科書、スキルの内容に加え、適宜補充プリントを出して問題を解かせたり、取り組みに時間を要する児童には休み時間等個別に指導したりすることで、学習内容の定着を図ることができた。

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学漢字やカタカナの読み書きや書き順をきちんと覚えていない状況が見られる。	・１年生の漢字やカタカナをきちんと書けなかったり、書き順を間違えて覚えていたりする実態がある。	・授業では、漢字の小テストを行って復習に力を入れるとともに、家庭学習で保護者にも協力していただき、漢字やカタカナの読み書きの習得を確実にする。	・国語の授業だけではなく、様々な場面で文字の書き方を指導したり、日々繰り返して漢字の家庭学習を出したりすることで、おおむね習得できてきた。今後も、日記の宿題や作文の学習などで既習漢字やカタカナを活用できるよう指導していく。	・新出漢字の書き順を丁寧に指導したり、既習漢字の書き順の確認や読み書きをプリントやテスト、家庭学習などで繰り返し行ったりした結果、児童の言語語彙への興味を高め、習熟を図ることができた。
		学文章をしっかり書ける児童とそうでない児童が見られる。	・書くことに対して苦手意識をもっている状況が見られる。	・授業で言葉集めをし、語彙力を増やすようにする。また家庭学習で日記の宿題を毎週行い、書くことに慣れるよう指導する。	・低学年用の国語辞典を使って、言葉の意味を調べる学習や対義語について調べる学習をすることで、少しずつ言葉について興味・関心をもつ児童が増えてきた。	・書き方の型をいくつか示したり、教師の見本を示したりすることで、書くことに慣れてきたり、詳しく書いたりすることができるようになってきた。
	算数	学文章題では、問題を最後まで読まずに、早合点してケアレスミスをしてしまう児童がいる。	・よく読めば答えられる問題も、勝手に問題を勘違いして間違えてしまう実態がある。	・文章題では、聞かれていることを丁寧に確認し、求めていることに正対して答えが出せるようにする。	・練習問題に取り組む際、聞かれていることに下線を引くよう指導したことで、何を求めればよいかを意識して答えを導けるようになってきた。今後も継続していく。	・分かっていることや聞かれていることを問題から見つけさせ、繰り返し学習をすることで、ケアレスミスをする児童が少なくなってきた。
		学計算学習では、習熟が十分でない様子が見られる。	・計算の仕方をよく理解していなかったり、理解していてもやり方が定着していなかったりする状況が見られる。	・授業で小テストを行ったり、家庭学習で計算問題に取り組ませたりするようにし、計算の仕方を確実に習得させる。	・授業中や朝学習、家庭学習で繰り返し計算練習をすることで、少しずつ計算の習熟を図ることができた。今後も継続していく。	・児童の実態を把握し、計算の学習を家庭学習に出すなどして問題に慣れさせていくことで、学習への理解を深めることができた。

3	国語	調 「書く力・言語」の領域で、標準スコアよりも少し下回る結果となった。 学漢字の定着に個人差が見られる。	・個人差はあるが、書くことに慣れていない状況が見られる。 ・日本語や漢字に慣れ親しんでいない児童がいるため、個人差がある。	・フィンランドの教育手法である、「フィンランドメソッド」の「好き嫌い作文」に取り組むことで、書くことに慣れさせるとともに、理由を自分で考えさせることで思考力の向上も図りたい。 ・漢字学習に力を入れ、毎日練習させることで、どの子にも文字を正しく書く力をみにつけさせる。特に「とめ」「はね」「はらい」に気をつけさせる。	・フィンランドの教育手法である、「フィンランドメソッド」の「好き嫌い作文」に取り組むことで、書くことに慣れさせるとともに、理由を自分で考えさせることで思考力の向上も図ってきた。成果は上がってきているため今後も継続し、指導していく。 ・漢字学習に力を入れ、毎日練習させることで、どの児童にも文字を正しく書く力を身に付けさせてきた。「とめ」「はね」「はらい」も定着してきたので、継続指導していく。	・フィンランドの教育手法である、「フィンランドメソッド」の「好き嫌い作文」に取り組むことで、書くことに慣れさせるとともに、理由を自分で考えさせることで、思考力の向上も図ってきた。その結果、発言する時や他の作文を書く時にも生かせるようになった。 ・漢字学習に力を入れ、毎日練習させることで、どの児童にも文字を正しく書く力を身に付けさせてきた。「とめ」「はね」「はらい」も定着してきた結果、テストの平均点も２割程度向上した。
	算数	調 「量と測定」の領域で、標準スコアを少し下回る結果となった。 学 簡単な計算（一桁のたし算やひき算、九九）でもつまずきが見られる。	・量感やめもりを読む力に個人差が大きいことが課題で ある。また、「単位」を正しく覚えられていない児童がいたり。「量感」が身についていない児童がいたりする。 ・繰り上がりのたし算、繰り下がりのひき算、九九がすらすらとできない児童がいる状況がある。	・学習プリントを使い、時折復習させるようにしていく。その際、理解が不十分な児童には個別で対応していく。 ・マス計算に取り組むことで、計算の能力向上を図り、全体の学力向上につなげていく。	・学習プリントを使い、適宜復習させることで学力の定着を図ってきた。量感やめもりを読む力も身に付いてきた。今後も根気よく指導していく。 ・マス計算に取り組むことで、計算の能力向上を図ってきた。今後も継続し、全体の学力向上につなげていく。	・学習プリントを使い、適宜復習させることで学力の定着を図ってきたことで、量感やめもりを読む力も身に付いてきた。　また、テストの平均点も１割程度の向上が見られた。 ・マス計算に取り組むことで、計算力の向上が見られ、暗算のスピードが上がった。そのことにより、２ケタ以上のかけ算の筆算の計算のスピードや正確性が向上した。
4	国語	調「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で、標準スコアよりも少し下回る結果となった。 調「書くこと」の領域が区や全国のスコアを下回っている。「書くこと」に対して個人の差が大きいことが課題である。	・既習漢字の読み書きや、「とめ」「はね」「はらい」を意識して書くことが課題である。 ・「書くこと」に対して苦手意識をもっている。	・ICT 機器を活用して、漢字の書き方を指導していく。普段の授業だけではなく、朝学習や家庭学習で漢字の学習を取り入れ、繰り返し指導していく。漢字の読みについては、漢字を使って短文作りをさせたり、教科書の音読を通して新出漢字の読みを確かめたりして定着させる。 ・日記や短文作りを日常的に取り入れていく。	・ICT 機器を活用して漢字の書き方を指導したり、日々繰り返し漢字の学習を取り入れて漢字の習熟を図ったりすることはおおむねできた。今後も、様々な活動の中で、既習漢字を使うよう指導していく。 ・日々の学習の中で短文作りをしたり、週に１回必ず日記を書いたりすることができた。その結果、「書くこと」に対して楽しさを感じている児童が増えた。今後も継続していく。	・ICT 機器を活用していくことで、意欲的に漢字を覚えることができた。作文やノートなどに文字を書くときに漢字を活用できるよう、今後も引き続き指導していく。 ・日記や作文では、基本的な書き方を繰り返し指導したり、説明文の学習で文章構成や小見出しの書き方を習得させたりすることで、少しずつ力が付いてきた。引き続き指導をしていく。
	算数	調各領域で課題が見られ、数量や図形の領域が標準スコアを下回る結果となった。 学計算の習熟が十分ではない児童が見られる。	・どのような計算をすればよいのか、図形の定義や性質の理解等、順序よく筋道を立てて考えていくことの理解が十分でないことがある。 ・計算の仕方を間違って覚えていたり、かけ算を確実に理解することが難しかったりする。	・日常生活や校外学習など、実際にある活動を活かして指導し、算数の学習が日常生活に役立つものであると実感させる。 ・授業だけでなく、家庭学習で、計算の仕方を指導する。	・「概数」の学習では、身近な買い物の場面を取り上げ、課題解決学習を行った。児童にとってより身近な場面を提示することで、算数が日常生活に役立つものであることを実感させることにつながった。 ・授業中や、朝学習、家庭学習などにおいて日々計算学習に繰り返し取り組ませることで、少しずつ計算の習熟を図ることができた。今後も継続していく。	・ICT 機器を活用し、図形をイメージしやすくしたり、実際に具体物を用いた活動を取り入れたりして、図形の特徴や性質の理解を深めることができるようになった。 ・計算に関する力が高まってきた。今後も引き続き、どこでつまずいているかを明確にし、家庭と連携して復習を確実に行うことで、定着を図っていく。
5	国語	調文の構成（主語・述語）の領域が標準スコアを下回る結果となった。 学内容ごとに段落を分けて文章を書くことが苦手な児童が多く見られる。	・主語、述語が何かを理解できていない。 ・段落の構成や文の塊で改行することや、段落頭の一文字空けを理解していない。	・普段の発言の中で、必ず主語・述語を意識して発表させたり、文のねじれがないようにノート指導をしたりする。 ・週末の日記で、段落を意識して書くことを意識させる。	・単語ではなく、必ず文の形にして、主語述語を意識させて発言させている。 ・週末の作文や、国語の書くことにおいて、段落を変えることを毎週意識させている。	・主語や述語を意識して話したり、文を書いたりする児童が増えた。今後も引き続き、学習プリント等や個別指導で定着を図っていく。 ・日々の日記の指導により、少しずつ段落を意識して文を書くことができるようになってきた。今後も引き続き指導していく。
	算数	調「数と計算」の領域で全国のスコアを下回っている。 学分度器やコンパスなど、用具の扱い方が稚拙である。	・命数法で書かれた数を記数法に表わすことができない。 ・用具を扱う際に、点に正しく合わせたり、しっかり固定したりする操作方法が苦手である。	・４桁ごとに区切りの補助線を入れるなど、読み方の工夫を教えたり、反復練習をさせたりする。 ・用具の使い方のポイントをしっかり示し、苦手な児童には個別指導をする。	・１学期の終わりに苦手であった『大きな数』の単元を復習した。しかし、定着が不十分な実態が見られるため、学期や学年末に復習をしていく。 ・習熟度別指導の利点を生かして、より丁寧に指導できるようにする。	・反復練習の機会を定期的に設けることで、多くの児童の定着を図ることができた。さらなる定着を目指し、引き続き指導していく。 ・作図の学習では、個別指導をできる体制にして指導したことにより、作図技能をさらに高めることができた。

6	国語	調平成２９年度の標準スコアで比較すると、全観点で全国、区を上回る結果となった。 調平成２８年度と２９年度の標準スコアを同一集団で比較すると、昨年度や全国、区を上回る結果となったが、「言語についての知識・理解・技能」の領域に課題が見られた。 学漢字の読み書きが十分に定着していない状況が見られる。	・獲得している語彙が少ない児童や、漢字を一時的に覚えることはできるが、定着することが難しい児童が見られる。 ・漢字を覚えていなかったり、「とめ」「はね」「はらい」を意識して書いていなかったりする実態がある。	・日頃から分からない言葉は辞書で調べたり、小テストなどを通して漢字の習熟を図ったりするとともに、他教科の書く活動などの中でも、既習漢字を使って書くよう指導する。 ・昨年度に引き続き、ＩＣＴ機器を活用して漢字の書き方を指導し、授業だけでなく、家庭学習で漢字の学習を取り入れる等、家庭と連携し、児童の実態を把握して指導する。	・日々の学習の中で適宜辞書を活用して語句の意味調べをしたり、小テストを実施して漢字の習熟を図ったりすることはおおむねできた。今後も様々な書く活動の中で、既習漢字を使うよう指導していく。 ・ＩＣＴ機器を活用することで、漢字の書き方や書き順の習熟を図ることができた。また、家庭学習で漢字の学習を取り入れることで、漢字を活用して文章を書く児童が増えた。	・知らない語彙を辞書で調べる児童が増えた。また、ワークシートやドリル教材、小テストなどを継続して活用したことで、基本的な文法の理解や漢字の習熟を図ることができた ・ＩＣＴを適宜活用したり、家庭学習で漢字の学習を取り入れたりすることで、漢字の習熟を図ることができた。また、卒業文集を書く学習などを通して、文章表現の工夫ができるようになってきた。
	算数	調全ての領域で、全国、区よりも上回っている。平成２８年度と２９年度の標準スコアを同一集団で比較すると、活用の領域ポイントが上がっている結果となった。 調「図形」の領域で、平成２８年度と２９年度の標準スコアを同一集団で比較すると、昨年度や全国、区を上回る結果となったが、集団の中では課題のある領域である。 学提出される課題の状況を見ると、計算の習熟が十分ではない児童が見られる。	・作図の方法やコンパス、分度器の扱い方の理解が不十分だったり、理解していても、上手く扱うことができなかったりすることがある。 ・計算に関しては、方法を理解していなかったり、方法は理解していても計算自体を間違えてしまったりすることがある。	・昨年度に引き続き、図形の指導においては、定義や性質、作図の学習だけではなく、学習した図形を切り取らせたり、敷き詰めさせたりするなど、操作的活動を取り入れる。また、ＩＣＴ機器を活用して図形の性質や作図方法を指導したり、学び合う際のツールとして活用したりする。そうした活動を通して、図形への理解を深めていく。 ・昨年度に引き続き、授業だけでなく、家庭学習で、計算の学習を取り入れる。また家庭と連携し、児童の実態を把握しながら指導する。	・図形の指導では、操作的活動やＩＣＴ機器を活用して視覚的に分かりやすく図形の性質を指導したことで、理解が深まった。今後も、日頃の授業の中で、ＩＣＴ機器を取り入れながら指導していき、定着を図る。 ・家庭学習で、計算の学習を適宜取り入れて指導してきたことで、簡単な間違いが少なくなってきた。今後も、家庭学習や日頃の授業の中で、適宜計算の学習を取り入れて、児童の実態を把握しながら理解が深まるよう指導していく。	・算数習熟度別指導の利点を生かし、ＩＣＴ機器を活用しながら児童の実態に合わせて指導したことで、理解を深めることができた。 ・児童の実態を把握し、計算の学習を家庭学習に出すなどして、理解を深めることができた。
音楽	学 ・全体として、よく声を出して歌えている。 ・比較的姿勢もよく、発問に対しても挙手をして答えようとする。	・拍の流れに乗ること、拍の頭をそろえること、拍子の意味を体感していくことやリズムを読み取る体験が少ない実態がある。 ・階名読みのできる児童とそうでない児童に差があり、階名読みについて慣れていく場が少なかった実態がある。	・拍感を育てるため、拍の流れに乗って、リズムを読んだり、体を動かしたりする活動を多く取り入れていく。 ・リズム読みから階名読みに進み、楽譜と親しめるように配慮する。 ・階名と実際の音とのつながりを意識して繰り返し感得していく活動を取り入れていくようにする。	・拍の流れに乗ってのリズム読みが、滑らかに読み進められるようになってきた。 ・１、３年生は、手遊びなど体を動かして活動する機会も取り入れているが、ペアづくりの時になかなか自分から入っていけない児童にも配慮しながら取り組ませている。 ・高学年には階名読みの機会をつくるようにしているため、少しずつ滑らかに読めるようになってきた。	・全校として、姿勢よく、よく声を出して歌えている。中学年以上の児童は、よく響く柔らかな声で歌えることを目指して取り組んで、意識的に発声について工夫するようになってきた。また、中高学年ではグループ活動を取り入れて、教え合い、励まし合いながらの交流活動もできた。 ・1年生はリズムに重点を置いて、拍感に慣れ親しむよう、手遊びや身体を動かしてのリズム表現なども行い、拍の流れに乗れるようになってきた。 ・中学年は拍の流れに乗ってリコーダーや楽器を演奏する機会を設けて、楽器の奏法の基本を学習することができた。 ・高学年は、学年全体合唱や合奏なども通じて、仲間と合わせることの楽しさや喜びも経験させることができた。

図工	学　２年生 ・初めて図工室で授業を受けるので、図工室での学習の仕方やルールを覚えることから始めている。 学　３年生 ・説明を静かに聞いたり、図工室での学習の仕方やルールが定着していなかったりする児童がいる。 学　４年生 ・基本的な授業姿勢や用具の取り扱いが身についてきている。 ・落ち着いて授業を受けることができている。 学　５・６年生 ・基本的な授業姿勢や用具の取り扱いは、概ね身についている。 ・自分なりの表現方法を見つけ始めている。	・集中力が持続しない児童がいる。また私語が多くなることがある。 ・学習の仕方やルールがまだ身についていない児童が見られる。 ・概ね一生懸命に制作に取り組むことができている。 ・表現したいものと、自分の表現技術とのギャップに戸惑うことがある。 ・高学年は一つ一つの課題にかける時間が長く設定されているので、計画的に制作することが求められる。	・作業行程に一定の区切りをつくり、集中できる時間を積み重ねていく。 ・毎時間、学習の仕方やルールを確認し、身につくまで丁寧に指導していく。 ・引き続き授業姿勢や基礎基本を丁寧に指導していく。 ・使える表現技法を増やしていき、児童が思った通りの表現ができるよう指導していく。 ・課題全体での制作行程を毎時間提示し、見通しをもって制作できるよう指導していく。	・多くの児童は積極的に課題に取り組むことができるようになってきた。全ての児童を注意深く見守り、指導していく。 ・以前より話を聞く姿勢がよくなってきた。引き続き毎時間、学習の仕方やルールを確認し、丁寧に指導していく。 ・多くの児童が積極的に課題に取り組むことができている。児童が興味をもてるよう、ＩＣＴ等を活用して指導していく。 ・片付けに課題が見られる児童がいるため、引き続き丁寧に指導していく。	２年生 ・図工室での学習の仕方は、ルールに基づいてできるようになった。今後は自分から進んでできるよう指導を続けていく。 ３年生 ・集中して学習できる場面が多くなった。今後も、集中し、静かに説明を聞く姿勢を身に付けられるよう、指導を継続していく。 ４年生 ・どの課題も一生懸命に取り組むことができていた。グループで協力して、よりよい活動ができるように今後も指導していく。 ５・６年生 ・用具の取り扱いは、概ね身に付いた。 ・見通しをもって制作することを身に付けられるよう、指導を続けていく。
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　※分量は２ページ以上となってもよい。